

〈昭和四十三年修了〉

椎名麟三論―「自由」の問題を中心に―

今沢道子

万葉集における抒情詩の成立

駒木敏

蛇聾入譚「芋環型」昔話の研究

宮本正章

〈昭和四十四年修了〉

中野重治論

水上勲

「平中物語成立事情考」

神保文成

芥川龍之介論

菅野信賢

挽歌成立について

上田吉晴

「伊勢物語狩使本の研究」

中里隆憲

〈昭和四十五年修了〉

紫式部日記論考

原田敦子

宇田川文海の続き物

堀部功夫

〈昭和四十六年修了〉

漢語と和語―美しさを表わす語彙の歴史を通して見たる―

浅野敏彦

近松世話悲劇の形成―『曾根崎心中』の構造と方法―

生井武世

万葉歌の解釈小論

坂本信幸

枕詞の本質とその展開―柿本人麿をめぐる―

今井昌子

日本靈異記と景戒

寺川真知夫

編集後記

昭和四十一年三月『同志社国文学』第一号が発刊されて早くも八年の歳月が流れ、ここに八号を送ることになった。本号の特色は一目してわかるように、若い方々の投稿を中心にして編集されていることである。そのうち坂本信幸君、今井昌子さん、浅野敏彦君、菅野美恵子さん、内多文子さんの諸氏は初登場であり、従って本号は今までにない清新の気に溢れている。

今回で六度目をかぞえる安永先生の「戦時下の文学」は、研究の方法、テーマへの沈潜において毎回世評の高いものであるが、特にわれわれ若き世代への強い訴えを含んでいる。その他駒木敏君の『靈異記』、原田敦子さんの『紫式部日記』の考察はそれぞれ新しい問題を投げかけている意欲的な論文である。近年にない暖冬のように、編集と印刷は着々と進んでいる。みなさん方の手許にこの雑誌がとどくのは間もなくのことと思われる。

(黒沢幸三)

執筆者紹介

坂本 信幸……………昭和四十七年度大学院  
(修士課程)修了生

今井 昌子……………昭和四十七年度大学院  
(修士課程)修了生  
光華女子高校非常勤講師

駒木 敏……………昭和四十三年度大学院  
(修士課程)修了生  
聖徳学園岐阜教育大学専  
任講師

原田 敦子……………昭和四十四年度大学院  
(修士課程)修了生  
金蘭女子短大嘱託講師

安永 武人……………昭和四十六年度大学院  
(修士課程)修了生  
本学教授

浅野 敏彦……………大阪府立東豊中高等学校  
教諭

管野 美恵子……………本学大学院学生  
内多 文子……………昭和四十七年度卒業生  
(表紙題字 土橋 寛)

投稿規定

国文学会機関誌「同志社国文学」は、会員諸氏の研究発表の場でありますから、進んでご投稿下さい。枚数は四百字詰三十枚〜四十枚。第九号締切は九月末日厳守。ただし掲載論文の数には限度がありますので、論文の採択は編集委員会に一任して下さい。

同志社国文学 第八号

昭和四十八年二月一日 印刷  
昭和四十八年二月五日 発行

編集者 同志社大学国文学会

代表 土 橋 寛

京都市上京区烏丸今出川

発行所 同志社大学国文学会

振替 京都二七三七

京都市南区吉祥院池ノ内町一〇

印刷所 明文舎印刷株式会社